

日本の資源と産業プリント

名前

問1 瀬戸内工業地域の沿岸部では、かつての塩田跡地や埋立地を利用して、関連する複数の工場がパイプラインなどで結ばれ、効率的に生産を行う仕組みが作られました。このような生産拠点の形態を何と呼びますか。 (2022年 三重公立入試 類似)

1. 石油化学コンビナート 2. 高度経済成長センター 3. 工業団地 4. ハイテクパーク

問2 高度経済成長期における日本の工業生産において、特定の工業拠点の「生産量」と「全国シェア」の関係性について述べた以下の文のうち、正しいものはどれですか。 (2020年 愛知公立入試 類似)

1. 全国的な工業生産の拡大局面では、拠点の生産量が増加していても、全体の成長速度が速ければシェアが低下することがある。
2. 高度経済成長期には、すべての工業拠点で生産量と全国シェアが比例して上昇し続ける現象が起きた。
3. 生産シェアが低下している拠点は、例外なくその製品の生産量そのものが減少していることを意味する。
4. 鉄鋼業などの重化学工業においては、内陸部への工場移転が進んだため、沿岸部の拠点の生産量とシェアは一貫して減少した。

問3 東京都23区のように、夜間人口に対する昼間人口の比率が100%を大きく上回る地域が見られる一方で、埼玉県などの周辺の県では100%を下回る傾向があります。このような現象が起こる背景について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 長野県公立入試 類似)

1. 都心部は大学や事業所が集中しており昼間の活動人口が多いが、住宅地価格が高いため居住地を周辺県に求める人が多いから。
2. 都心部は周辺県に比べて住宅地価格が安いので、夜間に居住する人口が昼間の活動人口を上回っているから。
3. 周辺県では近年、大規模な工場や事業所の誘致が進んだことで、都心部から周辺県へ通勤する人が急増したから。
4. 都心部では夜間人口を増やすための住宅開発が優先された結果、オフィスビルが減少し、昼間人口が減少しているから。

問4 日本の農業における土地利用について、ある地域の耕地面積構成比を全国平均と比較したところ、田の割合が極めて低く、代わりに果樹園や畑の割合が高いことが分かりました。このように地域によって耕地の構成に大きな差異が生じる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 栃木公立入試 類似)

1. 大規模な平野が広がっており、大型機械を導入して果樹の集約的な生産を行う必要があるため。
2. 傾斜地が多く水はけが良いなど、その地域の地形や気候が特定の作物の栽培に適しているため。
3. 都市部に近く地価が高いため、面積あたりの収益が低い田を減らし、工業用地に転用したため。
4. 冷涼な気候の影響で稲の生育が困難であり、一年を通じて降水量が極めて少ない乾燥帯に属するため。

問5 現代の日本における石炭の輸入状況と、その利用について述べた文として最も適切なものを選びなさい。 (2025年 広島公立入試 類似)

1. 主な輸入先はオーストラリアやインドネシアであり、輸入された石炭は主に火力発電の燃料や鉄鋼業の原料として利用されている。
2. 環境負荷を低減するため、石炭の輸入量は年々減少しており、現在は太陽光や風力などの再生可能エネルギーの発電量を下回っている。
3. 石炭は輸送中の発火の危険性が高く長距離輸送に向かないため、輸入先はロシアや中国などの近隣諸国に限定されている。
4. 石炭の主な用途は一般家庭での暖房用燃料であり、原油と比較して価格が安定しているため、冬場に輸入量が急増する傾向にある。

問6 日本の自動車工業の分布を概観すると、愛知県付近のほか、関東地方の平野部や九州地方北部にも工場の集積が確認できます。自動車の生産において、このように関連する工場が特定の地域に集まって立地する理由として、最も適切な説明を選択してください。 (2023年 福井公立入試 類似)

1. 数万点に及び膨大な数の部品を効率よく調達するため、組み立て工場と部品工場が密接に連携する必要があるから
2. 鉄鋼やセメントといった重量のある原材料を、原料産地から直接パイプラインで各工場へ輸送する必要があるから
3. 製品が極めて小型で軽量であるため、高速道路や空港に近い平野部であれば部品工場の場所を問わないから
4. 製造工程のすべてに大量の冷却水が必要とするため、大規模な河川の河口付近に工場を集中させる必要があるから

問7 2017年の日本の資源輸入に関する統計資料において、石炭と液化天然ガス (LNG) の両方で輸入先第1位となっており、日本にとって重要なエネルギー供給拠点となっているオセアニアの国はどこか、次の中から選びなさい。 (2020年 兵庫公立入試 類似)

1. オーストラリア 2. インドネシア 3. マレーシア 4. サウジアラビア

問8 太平洋ベルトを中心とした地域で、工業出荷額が他の地域に比べて格段に高い数値を示す要因として、地形的・経済的な背景から考察した説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 香川公立入試 類似)

1. 大型船が接岸できる良港に恵まれ、原材料の輸入と製品の輸出に有利な臨海部に巨大な工場群が形成されたため。
2. 内陸部の広大な平野を利用して、安価な土地で大規模な工場を分散させ、労働力を確保しやすくなったため。
3. 冬の積雪が少ない日本海側の気候を活かし、年間を通じて安定した操業と鉄道による大量輸送が可能になったため。
4. 各都道府県が独自に高い関税をかけることで、域内での製品消費を促進し、地元の製造業を保護してきたため。

問9 各国のインターネット普及率の推移を示す統計資料からは、2000年代以降に多くの国で利用割合が急増していることが読み取れます。このような通信情報技術の広がりに関する具体的な現状や特徴について述べた文として、最も適切なものはどれかを選びなさい。 (2017年 京都公立入試 類似)

1. 開発途上国の中には、固定電話網の整備が不十分なまま、携帯電話回線を通じてインターネットが急速に普及した地域がある。
2. インターネットの普及によって、世界中のすべての個人が同じ質の情報を得られるようになったため、地域による情報の格差 (デジタル・デバイド) は消滅した。
3. 各国の通信技術の発展は、地域別および国別の難民発生数を示す主題図と常に一致しており、普及率が低いほど難民の発生は少なくなる。
4. 現在の日本では、インターネット普及率が100%に達したため、新聞やテレビなどの既存のメディアは一切利用されなくなっている。

問10 ある3つの県の農業の特徴を比較したとき、「米の収穫量が多い県」、「豚の飼育頭数が際立って多い県」、「一農家あたりの耕地面積が極めて広い道」の組み合わせとして正しいものはどれか、次の中から選びなさい。 (2026年 愛知公立入試 類似)

1. 米：茨城県、豚：鹿児島県、面積：北海道 2. 米：鹿児島県、豚：北海道、面積：茨城県
3. 米：北海道、豚：茨城県、面積：鹿児島県 4. 米：茨城県、豚：北海道、面積：鹿児島県

問11 日本の貿易統計において、成田国際空港などの主要な空港は、貿易額 (輸出入の合計金額) において国内の主要な港を上回ることがあります。空港において、このような高い貿易額を記録する主な要因となっている品物の流通背景を説明したものととして、適切なものはどれですか。 (2023年 大阪公立入試 類似)

1. 自動車などの大型機械を、海外の需要に合わせて一斉に輸送する体制が整っているため
2. 製品のライフサイクルが短く、市場への迅速な投入が求められる電子部品などが多く扱われるため
3. 原油や液化天然ガスなどのエネルギー資源を、事故のリスクを避けて安全に運ぶため
4. 開発途上国から輸入される安価な衣類や日用品を、一度に大量に国内へ届けるため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 石油化学コンビナート	瀬戸内海沿岸には大規模な工場を建てる平地が少なかったため、江戸時代から続いた塩田の跡地などが再開発されました。原油を精製する工場とその誘導品を加工する工場が密接に連携する石油化学コンビナートが形成されたことで、原材料の輸送コストを抑えた効率的な生産が可能になっています。
問2	答え 1 全国的な工業生産の拡大局面では、拠点の生産量が増加していても、全体の成長速度が速ければシェアが低下することがある。	高度経済成長期の日本では、鉄鋼業をはじめとする重化学工業が急速に発展しました。各地で新たな工場建設が進み、日本全体のパイ（総生産量）が極めて速いスピードで大きくなったため、既存の拠点が順調に生産を伸ばしていたとしても、計算上の占有率（シェア）は小さくなる場合があります。この「生産量は増加、シェアは低下」という現象は、地理や経済の統計資料を読み取る際に見落としやすい重要なポイントです。
問3	答え 1 都心部は大学や事業所が集中しており昼間の活動人口が多いが、住宅地価格が高いため居住地を周辺県に求める人が多いから。	東京都23区ではオフィスや学校が集中しているため、昼間に周辺から多くの人が入り込み、昼間人口比率は約130%に達します。一方で、都心の住宅地価格は埼玉県などの周辺県に比べて数倍から数倍以上高いため、人々は住居を周辺県に構え、そこから都心へ通勤・通学する「ドーナツ化現象」が生じています。このため、周辺県では夜間人口が昼間人口を上回る（比率が100%を下回る）傾向が強くなります。
問4	答え 2 傾斜地が多く水はけが良いなど、その地域の地形や気候が特定の作物の栽培に適しているため。	農業における土地利用は、その場所の自然環境に強く依存します。平坦で水が得やすい場所では「田」としての利用が進みますが、水はけの良い傾斜地や台地では、果樹園や畑としての利用が優先されます。小田原市のような地域で果樹園の割合が高いのは、こうした地形的・気候的背景に基づいた合理的な土地利用が行われているためです。
問5	答え 1 主な輸入先はオーストラリアやインドネシアであり、輸入された石炭は主に火力発電の燃料や鉄鋼業の原料として利用されている。	日本は石炭のほぼ100%を海外からの輸入に頼っており、その輸入先はオーストラリアが約6割から7割、次いでインドネシアが多くなっています。輸入された石炭は、日本の電力を支える火力発電の燃料として、また鉄鉱石から鉄を取り出す際の原料（コークス）として、鉄鋼業などで不可欠な資源となっています。現在でも日本の一次エネルギー供給において重要な役割を占めています。
問6	答え 1 数万点に及び膨大な数の部品を効率よく調達するため、組み立て工場と部品工場が密接に連携する必要があるから	自動車は約3万点もの部品から構成されており、効率的な生産を行うには「必要なものを、必要な時に、必要な分だけ」調達する仕組みが重要です。そのため、大規模な組み立て工場の周辺には、物流コストを抑え、密な連絡を取り合える多くの関連部品工場が集まる「集積」という形態がとられます。また、九州北部などはアジアへの輸出や物流の利便性から、新たな拠点として発展しています。
問7	答え 1 オーストラリア	オーストラリアは広大な国土に豊富な鉱物資源を有しており、日本にとって石炭や液化天然ガス（LNG）、鉄鉱石の最大の供給国です。原油の輸入は約9割を中東地域に依存していますが、石炭やLNGについてはオーストラリアや東南アジア諸国からの輸入が多く、輸入先の分散を図る上で極めて重要な役割を担っています。
問8	答え 1 大型船が接岸できる良港に恵まれ、原材料の輸入と製品の輸出に有利な臨海部に巨大な工場群が形成されたため。	日本の工業、特に重化学工業は、資源の多くを海外に依存しているため、原材料の輸入と製品の輸出に便利な港湾施設を持つ臨海部で発展しました。太平洋ベルトには東京湾、伊勢湾、大阪湾などの大規模な入り江があり、原料の運搬効率が非常に高いという地理的利点があります。これに加えて、背後に巨大な消費地（東京、名古屋、大阪などの大都市）を控えていることが、工業生産を大きく成長させた要因です。
問9	答え 1 開発途上国の中には、固定電話網の整備が不十分なまま、携帯電話回線を通じてインターネットが急速に普及した地域がある。	開発途上国では、多額の費用がかかる固定電話網の敷設よりも、基地局を設置することで広範囲をカバーできる携帯電話網の整備が先行しました。これにより、パソコンではなくスマートフォンなどを通じてインターネット普及率が急上昇する現象（リープフロッグ現象）が見られます。なお、情報の格差であるデジタル・デバイドは依然として重要な社会課題であり、消滅はしていません。
問10	答え 1 米：茨城県、豚：鹿児島県、面積：北海道	茨城県は関東平野に位置し、水田単作地帯ではありませんが全国でも上位の米収獲量を誇ります。鹿児島県はシラス台地などの地形的制約から畜産業が発達し、特に豚の飼育頭数は全国トップクラスです。北海道は広大な平野を活かし、農家1戸あたりの経営規模が他県を圧倒して広いという特徴があります。
問11	答え 2 製品のライフサイクルが短く、市場への迅速な投入が求められる電子部品などが多く扱われるため	空港が貿易額で上位に位置するのは、高単価な製品が集中して取引されるためです。特に、集積回路（IC）などの電子部品は、技術革新のスピードが速く、製品の価値が下がる前に世界各地へ迅速に届ける必要があります。このような「スピード」と「高価格」が航空輸送の利点と結びついており、重量物や安価な製品を大量に運ぶ海上輸送とは役割が明確に分かれています。